

特集

モチベーションが上がる 看護研究の始めかた

看護の質向上には欠かせない試みではあるものの、スタッフにとっては“やらされている”と感じてしまうこともある看護研究。プライベートを割くこともあり、「逆により看護ができなくなるのでは」と危惧するナースも多いのでは。しかし、看護研究は、考え次第で毎日の看護の活力となります。皆さんの周囲には研究を始めるためのヒントが多く転がっており、そこから生まれた研究結果は、臨床、ひいては看護界全体に還元できる可能性も秘めています。看護研究に対する見方が変わり、研究の醍醐味を実感していただけたら幸いです。

看護研究は何のために行なうのか 菊池昭江
エンゼルケアの研究で変わった私のケア 袋井市民病院エンゼルケア研究班
仕事と看護研究を両立させるために 袋井市民病院研究委員会
看護研究のやりかた テーマの種を見つけて結果が芽を出すまで
袋井市民病院外来化学療法研究班
自分たちの発見を発表するということ 院内から学会発表へ 松本志保子

招待席

赤ちゃんからお年寄りまでが集う場を開く 山本文子さん・真鍋由紀子さん

新連載「A-LSD！」前哨 特別記事

「できなくなる」とはどういうことか ALS と甲谷匡賛さんを語る

新連載

看護師のためのセルフコーチング 自分の人生を自分でコントロールするために 鱈伸子・柳澤厚生 患者・看護師双方のためのアクティビティケア 六角僚子 Pipo さんの疾走ダイアリー レクチャー感染症 今村顕史

連載

アフリカが紡ぐ命の物語・4——井上冬彦
明るい肉体・12 (最終回)——天田城介
悩めることも才能だ! 宮子あずさの悩み外来・16——宮子あずさ
看護に役立つ! 人体の神秘の世界へご招待
からだと病気とミクロのはなし・13 (最終回)——藤田芳邦・松原まどか

看護学雑誌 第71巻第3号 2007年3月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめ予約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・第69巻以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

[看護学雑誌]編集室(担当/鶴淵・大野・小田嶋) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/07/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご掲示くださるようお願いいたします。

編集後記

●本号をもって、一気に4つの連載が終了します。いずれも楽しみながら知識が身につく、さらに深い学びへとつながる、大変有意義な内容でした。著者の皆さま、長期間にわたり本当にお疲れさまでした。なお、来号から新連載にバトンタッチされるので、読者の皆さまは引き続きご期待ください。

ところで、約2年ぶりに携帯電話の機種を変更しました。パソコン向けサイトが見られるブラウザ、電子マネー機能、ワード・エクセル閲覧可能……etc、これでもかというほどのオプションが搭載されていて、ひと通りの使い方を頭に叩き込むには時間がかかりそう。携帯を忘れたが最後、日常生活に完全なる支障をきたす日も遠くはなさそうです。【鶴淵】

●摂食・嚥下リハビリテーションに関しては、以前よりさまざまな試みがされていますが、今回とりあげた取り組みは、そのなかでもかなりユニークなものだったのではないのでしょうか。

特に私は、白坂さんのお原稿の14年間の軌跡に驚かされました。入院日数の短縮が進み、退院したとしても、長期で携わるにはクリアしなくてはならない問題が山積みである現在。そんな現在において、この14年という期間のもつ重みは、計り知れません。

たとえ、これほどの長期にわたる患者さんとのかわりがなかったとしても、読者の皆様も、白坂さんの14年を通して、「看護」を成り立たせているものが何なのか、改めて感じ取ることができるのではないのでしょうか。【大野】

●納豆が消えた。「納豆を1日2個食べるとやせられる」「かき混ぜてから20分おいてから食べるのがよい」と放送され、私の家内も翌日昼前に勇んででかけたが、すでにスーパーでは品切れ状態であった。これでは、今までフツに納豆を食していた家庭は大迷惑である。「あれは根も葉もないことでした」と謝罪されてもなあ。さて、この事態で思い出すのは、1973年のオイルショックである。このときは、信じられないだろうがトイレトペーパーが消えたのである。原油の価格が上がるとなゼトイレトペーパーを買い漁らなければならなかったのか、理由は今もってわからない。まあ、納豆なら体にもいいし、腐るものでもなし(?)。今のところ、体重は減っておりません。【小田嶋】